

公益財団法人

浅香山病院看護専門学校

推薦・社会人・一般入試

過去問題集

(2025年度・2024年度入試分)

【*解答は非公開です】

受験番号	
氏名	

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

日本人の多くがもつ「子どもが育つ理想の家庭」のイメージは、決してお金持ちの家庭ではない。貧しくても、家族の結びつきが強く、温かい、幸せな家庭。私たちが連想しやすいのはそういう家庭である。『サザエさん』の磯野家や『ちびまる子ちゃん』のさくら家など、どれも、決して裕福な家庭ではない。テレビドラマや小説では、むしろ、お金持ちの家庭のほうがかたく、不幸な育ち方をしているイメージが作られている。『ちびまる子ちゃん』に登場する花輪クンの家は、じいやがリムジンで小学校の送り迎えをするような家庭だが、花輪家よりも、三世代の家族がちやぶ台を囲んでテレビを見ながらみかんを食べるさくら家のほうが幸せそうである。磯野家もさくら家も「普通の家」であり、「普通の家」で育つ限り、現代日本の子どもは通常は幸せであると考えられていた。子どもに関する社会問題といえば、厳しい受験戦争からくるストレスや、次から次へと開発されるゲームへの^①ポットウやインターネットからの悪影響など、子どもが属する家庭の経済問題とは別のところで論じられてきた。このような問題はむしろ、裕福な家庭で育つ子のほうが多いと考えられている^②。フウチョウウさえる。

このような傾向の中で、長い間、^A日本の子どもが直面している経済状況を社会問題とすることはタブーとされてきた。根底にあったのは、日本が「総中流」社会であるという考えである。たしかに、児童養護施設で育つ子や、生活保護を受ける世帯に育つ子もいるであろうが、そのような子どもはごく少数の特殊な例であり、日本の大多数の子どもは「貧困」などからは遠い位置にあると多くの人が信じてきたのではないか。そして、多少の差はあるものの、すべての子どもがそれ相応の教育を受け、能力と意欲さえあれば世の中で成功することができるのだ、と。

「a」、一九九〇年代に入ってから、日本が「格差社会」であることが多くの人に意識されるようになり、「一億総中流説」は神話と化した。そんな中、二〇〇六年七月、経済協力開発機構（OECD）が、日本の相対的貧困率がOECD諸国の中でアメリカに次いで第2位であると報告した。これは大きな^③ショウゲキをもって受け止められ、マスメディアにおいても多く報じられた。いわば、日本の貧困が「^Aお墨付き」となったわけである。

大人の社会で「格差」が存在するのであれば、大人の所得に依存している子どもの間にも、当然のことながら「格差」が生じる。前述のOECDの報告書では、子どもの貧困率についても警告を鳴らしており、1. 日本の子どもの貧困率が徐々に上昇しつつあり、二〇〇〇年には14%となったこと 2. この数値が、OECD諸国の平均に比べても高いこと 3. 母子世帯の貧困率が^④トツシュツして高く、とくに母親が働いている母子世帯の貧困率が高いことが指摘された。これらの指摘については、二〇〇七年初めに、野党が「子ども手当法案」を提案するなど、政治的な動きも高まった。また、二〇〇八年に『週刊東洋経済』が「子ども格差」と題する特集を組んだ。とうとう、「子ども」と「格差」が同じ土俵でマスメディアで語られることになったのである。

しかし、それでも、子どもの経済問題は、^⑤イゼン「格差」という言葉で語られ、「貧困」は語られているようで語られていない。先述した「子ども格差」特集の一部は、「子どもの貧困最前線」を掲げているものの、中身は^⑥ギャクタイ問題、生活保護の問題、妊婦健診の公費助成の地域差などを取り上げており、今ひとつ「子ども」と「貧困」を結びつけていない。その理由は、おそらく、どの程度の生活水準が「貧困」であり、どの程度までが「貧困」でないのか、その境界線がいまひとつ^⑦ピンとこないからであろう。

OECDの報告書の指摘する「子どもの貧困率14%」は確かに高く感じられるが、ここでの「貧困」とはいったいどのようなレベルのことを指すのか、はっきりとわからない、というのが、日本のほとんどの人々の感想ではないであろうか。言葉を換えて言うと、資本主義の社会で生きている以上、ある程度の「格差」が生じるのはいたしかたがない。花輪クンの家の生活水準と、ちびまる子ちゃんの家の生活水準に格差があることは、社会問題なのであろうか。たしかに、花輪クンとちびまる子ちゃんが、受験戦争で競争するのであれば、たぶん、幼児教育や家庭教師などの^⑧オンケイを受けてきた花輪クンが勝つであろう。つまり、「機会の平等」が^⑨ホショウウされていいこととなる。しかし、誰もが有名大学に行きたいわけでもないし、行ったからといって、それが幸せにつながるホショウウがあるわけでもない。ここでも、議論は^⑩堂々巡りをしてしまうのである。

貧困研究で著名な岩田正美教授は、^B貧困と格差の違いを決定づける基準として、貧困は「許容できないもの」と定義づけている。格差が^⑪替無であるユートピアの世界ではともかく、現代資本主義の社会においては、ある程度の高い生活水準の人と、比較的低い生活水準の人ができてしまう。「b」、「格差」は多かれ少なかれ存在する。子どもにとっても、まったく同じ条件でスタートラインにたつ

というような完全な「機会の平等」は理想として語られることはできても、それを実質的にホショウすることは不可能に近い。しかし、貧困と格差は異なる。貧困^⑩撲滅を求めることは、完全平等主義を追求することではない。「貧困」は、格差が存在する中でも、社会の中のどのような人も、それ以下であるべきでない生活水準、そのことを社会として許すべきではない、という基準である。

この「許すべきではない」という基準は、価値判断である。人によっては、「日本の現代社会において餓死する人がいることは許されない」と思うだろうし、またほかの人は「餓死する人がいてもしかたがない」と思うかもしれない。また、「すべての子どもは、本人が希望して能力があるのであれば大学までの教育を受ける権利があるべきだ」と思う人もいれば、そう思わない人もいる。だからこそ「貧困」の定義は、社会のあるべき姿をどう思うか、という価値判断そのものである。

（阿部彰『子どもの貧困と日本の不公平を考える』より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している）

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがなで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 傍線部（ア）～（ウ）の意味を簡潔に記せ。

問3 空欄 a・b に当てはまる適切な接続語を書け。

問4 傍線部 A 「日本の子どもが直面している経済状況を社会問題とすることはタブーとされてきた」のはなぜか。本文の記述を参考に六〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問5 傍線部 B 「貧困と格差の違い」とあるが、それはどのようなことか。本文の記述を参考に四〇字以内で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問6 本文の内容と一致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

- ア 資本主義社会において、「貧困」と「格差」は必ず存在するので、ある程度はやむを得ないこととされている。
- イ 資本主義社会において、「貧困」と「格差」は必ず存在するので、完全に平等な社会を追求しても意味がない。
- ウ 資本主義社会において、「貧困」はその社会が持つ生活の価値基準に基づくものであり、「格差」とは異なる。
- エ 資本主義社会において、「貧困」は個人の努力と大きく関係するし、「格差」は生まれついた環境に左右される。

問7 あなたにとって「貧困」とは、どのような状況を指すか。以下の条件にしたがって記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とする。

○2 二段落で構成する。書き出しと段落の始まりは、一字あけて書く。

○3 段落の内容は、以下のようにする。

第1段落 「貧困とは、どのような状況か」を、端的に書く。

第2段落 なぜそう考えるのか、を具体的に書く。

○4 「～です」「～ます」などの丁寧語表現は使わない。

令和7年度 浅香山病院看護専門学校 社会人入試後期 国語総合 問題

受験番号	
氏名	

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

※解答はすべて別紙・解答欄に記入すること。

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

今日、われわれは、何か判断したり論じたりするときに、いわゆる人間中心主義（ヒューマニズム）と呼ばれる近代的価値観を前提にしている。いつてみれば、今日のわれわれの倫理学の教科書には、大書してこの近代的ヒューマニズムが掲げられており、ヒューマニズムに反する論議など論外であって、あらかじめハイジヨ①されてしまう。教科書はいう。個人の生命と自由、幸福を追求する権利、そして一人一人の人格が平等に尊重されなければならない。これは絶対的で（ア）普遍的な価値である。と。

少し分解していえば、ここには次のような価値が含まれているといつてよいだろう。生命尊重、人格尊重、個人的自由、自己決定、幸福追求の権利、これらの権利の平等性、そしてその権利の絶対的正当性、といったことだ。

われわれはそれを疑いのないものとしている。しかし、この近代的価値はどうも「死」という人間の根源的な事実を前にすると、ほとんど無力になってしまふ。いやそれどころではない。A この近代的価値こそが、むしろ「死の問題」を相当に複雑で解決困難なものにしているのではないのだろうか、とも思えてくる。

「a」、生命尊重を無条件で絶対的とみなしたとしよう。すると、われわれは心臓がハクドウ②している限り、意識があらうがなからうが、植物的にベッドに転がされていようが、いかなる状態にあつても延命処置をほどこされることになる。これが無条件の生命尊重の帰結であり、安楽死や尊厳死の問題は、まさしくそのような状態が耐え難いものとなったからこそ出てきたのであつた。

しかし同時に、人は「人格として尊重されるべき」だともいわれる。とすれば、そもそも「人格」とは何かが問われることになる。植物的状態に置かれ、生命イジ装置③によって生きながらえるのは果たして「人格」を尊重されているのか、と誰しもが思う。「尊厳死」という言葉を私は好まないが、それでもここで「尊厳」という言葉が使われるのは、まさに、このような終末が「人格の尊厳」なのかという問いを発したくなるからである。

「b」、安楽死問題は、一方で、現代の医療技術の想定外の進歩の結果、人は簡単には死ねなくなつてしまつた結果である。と同時に、そこには、この近代的価値そのものが深く関わっているということにもなる。繰り返すが、それは一方では生命尊重を高々と掲げ、他方では、自己決定や自己の幸福追求権を掲げ、この両者がまったく対立してしまうのである。だから、この近代的価値をもつてきて、安楽死問題に答えをだそうとしても無理な話である。

しかもこの場合、生命尊重は、いろいろある近代的諸価値のなかのひとつというようなものではなく、何ものにも代えがたい重みをもっているのだ。それは、近代のすべての価値の重心なのであつて、ヒューマニズムの核心的価値なのだ。だから、いかなる形であれ、他人の生命のマツショウ④に関わる行為はまずは殺人とみなされ、最高度の犯罪とされる。

ともあれ、生命尊重が安楽死問題に関してもかなり厳しいハードルになっているのは、それを破ることが殺人罪というジユウバツ⑤に問われかねないからだ。保険金目当ての計画的殺人であれ、路上での衝動的殺人であれ、親分を殺されたヤクザの復讐であれ、そしてみるにみかねた囑託殺人⑥であれ、法的にはすべて殺人なのである。欧州における安楽死の先進国とされるオランダでは、1971年に、苦痛にあえぎ、しかもたびたび自分を殺してくれと哀願する母親を、ある女性医師が安楽死させたポストマ事件があつた。彼女は囑託殺人に問われ有罪となつた。しかし、その判決には、次の条件を満たせば安楽死は殺人にはならない、という文言が付加された。それは、患者が病気に耐えがたく、病気の回復が見込めないことを複数の医師が判断し、しかも患者に明快な自死の要求がある場合には犯罪にはあたらない、としたのである。

こうして、オランダやスイス、そしてアメリカのいくつかの州では、安楽死は容認、つまり一定の条件を満たせば殺人とはみなさない、という法的判断が打ち出された。耐え難い苦痛からの脱出の最終手段としての自死という自己決定を、一定の条件のもとで優先するといふ一種の（イ）妥協であり、あるいは例外措置⑦である。

「c」、ここに実は、正面からは語られていないきわめて重要なことが隠されている。もう一度述べると、多くの安楽死問題は、「生命尊重の権利」と「自己の幸福に関する自己決定の権利」の対立として理解される。このふたつの権利は、（注）絶対王政から解放された近代の入り口にあつては、別にムジュン⑧でも何でもなかった。「自己の幸福追求」は「生存」を前提としているからである。しかし、それから200年以上もたった今日、このふたつの権利は、安楽死のような状況では、原則的に調停不可能となつた。だから、一定の条件では法的裁可を問わない、という妥協と例外措置になつたのである。しかし、問題はそれ

だけであろうか。

近代的価値の核心は、もう一度 (ウ) 列挙すると次のようなものである。「生命尊重」「自己決定」「自己の幸福追求の自由」そしてもうひとつ「人格としての尊重」である。もっとも、「人格としての尊重」の中に「生命尊重」も「自己決定」「幸福追求」も含まれると考えれば、近代社会の基本的価値は、「個人の人格の尊重」に集約されるといってもよい。ところが、安楽死の問題は、「個人の人格の尊重」では話が片付かないのである。「人格としての尊重」といっても、一方には「生命尊重」があり、他方には「自己決定」プラス「幸福追求の自由」があつて、この両者の間の対立が生じる。苦痛の極限では「死」こそが幸福という事態が生じるからである。

しかも、ここにもうひとつの「人格としての尊重」がある。これは、たとえば、ある人の生命は保障するが半ば奴隷状態におかれる、あるいは、その意思を ^⑨サイミンにかけたかのように管理してしまう、といった事態であり、それでは「生命尊重」には反しないとしても「人格尊重」とはともいえない。また、生命も自由も与えられているが、徹底して ^⑩侮辱され自尊心を破壊され、恥辱を与えられれば、これも「人格尊重」とはいえない。人は徹底的に誇りを傷つけられて自殺することもあるのだ。

つまり、「人格の尊重」とは、ただ人が生きること尊重するのではなく、一人の人格の持ち主として尊重する、ということである。でなければ、とてつもない極悪人の「人格」も十分尊重されねばならないということになるであろう。

(佐伯啓思『死にかた論』より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している)

・注 絶対王政——「絶対君主制」とも呼ばれ、君主が絶対的な権力を行使する政治体制を指す。歴史的には、中世以降、王が強大な権力を持つて中央集権化を図り、国家統一を成し遂げた時代の政治形態を指す。

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがなで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 傍線部(A)～(フ)について。I 漢字の読みをひらがなで記せ。II 意味を簡潔に記せ。

問3 空欄a～cに当てはまる適切な接続語を書け。

問4 傍線部A「この近代的価値こそが、『死の問題』を相当に複雑で解決困難なものにしているのではないのだろうか」とあるが、筆者がそのように考えるのはなぜか。本文の記述を参考に、解答欄の形式に従って五〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問5 傍線部B「人格としての尊重」とはどのようなことか。本文の記述を参考に、三〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問6 本文の内容と一致するものを、次の中から一つ選び、記号で答えよ。

A 安楽死問題は、近代医学の想定外の副産物であり、弊害であるとも言える。

I 安楽死問題は、近代的価値と相入れない部分があり、常に対立を含んでいる。

ウ 安楽死問題は、合理的判断がととも難しく、医師でも間違えることがある。

E 安楽死問題は、さまざまな妥協と例外を含むので、合理的判断とは言えない。

問7 本文中に、母親を殺した女性医師の例が出てきた。彼女の行動について、あなたはどのように考えるか。以下の条件にしたがつて記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とすること。

○2 二段落で構成する。書き出しと段落の始まりは、一字あけて書く。

○3 段落の内容は、以下のようにする。

第1段落 女性医師の行動について、どう考えるか。端的に書く。

第2段落 なぜそう考えるのか、を具体的に書く。

○4 「～です」「～ます」などの丁寧語表現は使わない。

令和7年度 浅香山病院看護専門学校 一般入試前期 国語総合 問題

受験番号	
氏名	

※解答はすべて別紙・解答欄に記入すること。

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

教育は一見すると、分かっている事柄を、一方的に^①デジユすればすむことのように思えます。そして、そうした幼稚園から大学に至るまでの教育に共通しているのは、問題の設定とそれに対する解答に尽きます。その教育が目ざしているのは、ポジティブ・ケイパビリティの養成です。平たい言い方をすれば、問題解決のための教育です。「a」、問題解決に時間を費やしては、賞賛されません。なるべくなら^(ア)電光石火の解決が推奨されます。この「早く早く」は学校だけでなく、家庭にも浸透しています。

問題解決があまりに強調されると、まず問題設定のときに、問題そのものを平易化してしまう傾向が生まれます。単純な問題なら解決も早いからです。このときの問題は、複雑さをそぎ落としているので、現実の世界から遊離したものになりがちです。言い換えると、問題を設定した土俵自体、現実を踏まえていないケースが出てきます。こうなると解答は「(イ)机上の空論」になります。

教育とは、本来、もつと未知なものへの^②イフを伴うものであるべきでしょう。この世で知られていることより、知られていないことのほうが多いはずだからです。江戸時代、武士の子弟が小さい頃から、返り点をつけただけの漢籍を内容がよく分からないまま素読させられたのは、^A現在の教育とは正反対の極にあります。子供は何のために素読をするのか、まず分かりません。ただ声を出すだけで、意味も分からないままです。しかし何十回と繰り返していくうちに、漢文独特の^③ヨクヨウが身についてきます。漢字の並びからほんやり意味がつかめるようになります。この教育には、教える側も教えられる側にも、分からないことへのいらだちがありません。分からないのもいいのです。子供は、言われるがままに何回も音読を繰り返します。つかえつつかえ読んでいたものが、いつの間にかすらすらと読めるようになります。

一方の教える側も、手取り足取りは教えません。ゆっくり構えています。その漢籍が自分にまだ理解できないような、深い内容を含んでいるのかもしれませんが。教える内容が、教える者自身が充分に分かっていない可能性もあります。それでも教える素材に^④ケイアイの念をいだいているのは確かです。子供に音読させながら、自分もその文章の背後にある真実を見極めようとしているのかもしれませんが。ここには、そもそも土俵としての問題設定がありません。ひたすら音読して学ぶだけです。さらに言えば、学びの先にあるものも、判然としません。簡単に言えば、素養でしょうか。現代風な表現では「教養」です。

素養や教養は、問題に対して早急に解答を出すことではありません。むしろ反対かもしれません。解決できない問題があっても、じつくり耐えて、熟慮するのが教養でしょう。そうすると、今日の学校での教育がどこか教育の本質から^⑤逸脱しているのが分かります。

もう三十年以上も前、私は仕事のため南仏のマルセイユに住んでいました。長男は小学一年、次男は幼稚園児でした。フランス語が分からなくても、どうせ一年生ですから、必要になったら、その場で覚えればいいというくらい、学校の方針はゆるやかでした。そもそも、近くの小学校に行ったその日から、「では、お子さんを預ります」だったのです。この^⑥鷹揚さと大胆さには、度肝を抜かれました。

あるとき、長男が友人を家に連れて来ました。マルセイユは多人種の集まりで、北アフリカのアラブ系、アフリカや東南アジアの旧フランス領からの移民も多く、人種の^(注)坩堝^{もっほ}と言っている町でした。そのとき家に来たクラスメートのひとりが、大人顔負けの背丈をしていました。普通なら、小学六年か中学生の体格です。不思議に思っていると、「覚えが悪いので、一年生を何年かやっている」という返答でした。悪びれもせず、明るく答えたので二度驚いたくらいです。そうか、^Bマルセイユの小学校は、落第があるのだと感心しました。

学習の速度が遅い者は、その学年を何度でも繰り返す。考えてみれば、これは当然です。早く覚えてトントン拍子で進級したあと、^⑥頓挫する学生もいれば、スタートは遅くても、いったんのみ込んでしまえば、あとは学習が円滑に進んで、追い越す子もいるでしょう。

本来、教育というのはそれが本当のあり方ではないでしょうか。ところが、今日の教育は^(ウ)画一的です。横並びで一年一年を足並揃えて、上級学年に上がっていく体制になっています。その結果、採用されたのが到達目標とその達成度です。その到達目標も、個々人に合った目標ではありません。あくまで一年毎の建前としての到達目標です。私は学校教育が到達目標を設定したときから、学校が変質したような気がします。

小学一年はこれこれ、小学三年はこれこれという具合に、目標が決められると、必ず落ちこぼれが出ます。市民マラソンと同じで、遅

れた走者は車が拾っていきます。何時間も道路を⑦フウサできないからです。車に拾われた子供はどうなるのでしょうか。次の年のマラソンでも、やはり車に拾われて、とうとう小学校を卒業するまで、毎年車に拾われる六年間を過ごします。中学校でどうなるかは、もう自明です。これでは、学校が⑧クギョウウの場となる子供が出ては仕方ありません。ところでん式の進級と進学に輪をかけているのが、試験です。この試験⑨トツバこそが、学習の最終目標と化してしまうと、素養としての教育ではなくります。問題解決のための学習、勉強になってしまうのです。

学べば学ぶほど、未知の世界が広がっていく。学習すればするほど、その道がどこまでも続いているのが分かる。それが人の心の常であり、学びの力でしょう。「b」, 答えの出ない問題を探し続ける挑戦こそが教育の⑩真髓でしょう。

(篠木 遼生『ネガティブ・ケイパビリティ―答えの出ない事態に耐える力』より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している)

(注) 坩堝：種々のものが混じり合っている状態や場所。

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがなで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 傍線部(A)～(F)について。I 漢字部分の読みをひらがなで記せ。II 意味を簡潔に記せ。

問3 空欄a・bに当てはまる適切な接続語を書け。

問4 傍線部A「現在の教育とは正反対の極にあります」について、次の問いに答えよ。

I 「現在の教育」とはどのようなものか。本文の記述を参考に、二〇字以内で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

II 「正反対」とあるが、何がどのように「正反対」なのか。次の選択肢から最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

A 漢文の複雑さをそぎ落として、できるだけ早く、単純な解決を求めているということ。

I 何のために素読をするのか、子供たちは目的も意味もわからないままの状態だということ。

U 漢文の素読が、問題設定も解決もなく、じつくりと熟慮することだけを求めるということ。

E 教える側も教えられる側も、分からないことへのいらだちを常を感じているということ。

問5 傍線部B「マルセイユの小学校は、落第があるのだと感心しました」とあるが、筆者はなぜ「感心した」のか。本文の記述を参考に、

五〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問6 先日のニュースで、ここ数年「不登校」の生徒が増えている、と報道されていた。あなたは、現在の教育システムの問題はどこにあると考えるか。以下の条件にしたがって記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とすること。

○2 二段落で構成する。書き出しと段落の始まりは、一字あけて書く。

○3 段落の内容は、以下のようにすること。

第1段落 現在の教育システムの問題点を、端的に書くこと。

第2段落 どのように問題なのか、を具体的に書く。

○4 「～です」「～ます」などの丁寧語表現は使わない。

受験番号	
氏名	

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

問 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

そもそも医師たちは、何ゆえに「医」を目指すのであろうか。本当は、日本中のすべての国家試験にこの設問を①モウきたいものである。もちろん多くの大学の入試の面接でも、通り一遍には聞かれる。だが、私は本音をききたい。一体「医」を何と解釈して目指したのかと。

この質問を最近出会った多くの医師たちにたずねた。

およそ半数の人々が、医師の家に育ち、医療を行う親を見て大きくなったからだ、と答える。それらの個々に詳細をたずねると、マンゼンと運命に身を委ねて流されたわけではなく、何か大きな動機がそこに存在したという人が多かった。そういう人だから現在指導的な立場にいるのかもしれない。

数多くのインタビューの中でひとりの年配の医師が、正直に話してくれた。小学校時代から優等生であった自分は、教師からこの点数なら医学部合格間違いなしと言われ、「それもいいかなと、大した目的もなく医師になった」と。そして「表向きには、『ボクは小学校の時に読んだシユバイツァーの伝記に感激して、以来医師を志しました』ということにしている」と、肩をすくめていたずらっぽく笑った。

わが国では、難関といわれる医学部の門をくぐり、さて安心と適当に合格点だけを取り六年間を過ごして、国家試験さえクリアすれば、晴れて医師免許証が手に入る。人に④相対してその苦悩を診なければならぬ仕事であるという自覚の、あるなしを問われなのまま医師になる。器械を上手に操り、結果のみを診て教えられた治療マニュアル通りに実践し、不都合が生じれば「患者の方がおかしい」と(ア)責任転嫁する。そういう医師群が、医療のミスを⑤オカシ、やり過ぎを引き起こしても不思議ではない。

人は出会い、そして別れる。一期一会、相まみえた人それぞれから、忘れたい思いを残される。医療者と患者は⑥ノウミツな対人関係にある。A 医は、人を相手とする仕事と、外科医上西紀夫は強調する。

彼の勤める東京大学医学部というところは、昔からエリートを育てる目的の教育機関のひとつであった。そこに集まる学生は、現在行われている勉強を点数に換算する安易な方法によると、全員がハイレベルであることに違いない。教授たちもおそらく高い意識で学生を教えているのであろうが、果たしてそれらの人々すべてが人間としてあるべきあたかき、やさしさを共有しているかどうかは疑問である。これは何も東大だけでなく、すべての大学にいえることである。

学生や医師を教育する立場にある上西は、B現在の大学には残念ながら医の倫理をきちんと教える人も機会も不十分だと考える。もちろん大学の教養部の段階では関連の講義があるが、医における倫理学は、本来実際に患者に接することで学んでいくものと主張する。医学部教育のあり方が見直されはじめている今日、その(イ)一翼を担う上西は次のように話した。

「病棟でなるべく長い時間をかけ患者さんに接して、医療以外にもいろんな会話をするように指導しているのですが、どうも人と話をするということができない子が多いですねえ。はつきり言って対人関係が大変に下手です。医学とは関係のない、いろいろな世間話ができるような経験の積み重ねが、子供のころからできていないのじゃないでしょうか。たしかに勉強はできるでしょうが、その他の体験、たとえば医学以外の分野の音楽とか文学とか、スポーツにしろ、恋愛にしろ、一生懸命にやった経験がないんじゃないかと思いますよ。」

結局、いろんな経験をした人の方が患者さんに対していいと思われます。私は学生や研修医に、患者さんに⑦フダンからいろんな話をしながら付き合っていきなさいと言います。そしてひとりの人として接していれば、何も取りたてて倫理などと言わなくとも、患者さんのためになろうとか、患者さんのことを親身に思う気持ちになるのじゃないかと思えます。そうすることによって、患者さんのための医療ができる。ひいては医療ミスなど、起こらない。

何をやらしてもひとりで何でもできちゃうと思っている人間が集まっている場合、他とのコミュニケーションを取るのが下手です。

医療はチームワークによって成り立ちます。ひとりでは何もできません。他を思いやって、よい対人関係を結ぶことのできる、^⑧ハバの広い人間を育てなければなりません。それには中学、高校、そして大学もシステムを見直さなければなりません。

しかし実際には、千人の患者さんを診て治療した成績よりも、物言わぬ実験用のマウスだけを対象にして論文を書き、インパクトファクターによる結果の方が学問としては上というのは、臨床の医学として何かおかしい気がします。治療はあつちに置いておいて卓上の仕事だけで高い評価を得ていても、患者さんに接することなくして臨床の分野の医者と言えるでしょうか。もうそろそろ医師の評価の基準も、見直していかなければなりませんね。

インパクトファクターとは、医学雑誌のランキングのひとつで、さらにはそれに^⑨ケイサイされた研究者の論文業績の評価に用いられ、時としてこれに振り回され「医」の本質を見失うことすらあると聞く。

研究と臨床技術、大学勤めの医師が回していかねばならない両輪である。しかもそれは患者を治そうという主軸が通って、はじめて回転し前進していくものではなからうか。ともすればいずれかに^⑩カタヨるがゆえに、間違った方向へ転がっていく。まっすぐに進むように^(ウ)舵取りをする教授という仕事は、重い。

(比企寿美子「がんを病む人、癒す人」より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している)

注 この書籍は二〇〇一年に出版された。「看護師」という呼称に統一されたのは二〇〇二年のこと。

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがんで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 傍線部(A)～(ウ)について。Ⅰ 例にならって、漢字部分の読みを書け。Ⅱ 傍線部全体の意味を簡潔に記せ。

〈例〉(てんぼうだい)

展望台

問3 傍線部A「医は、人を相手とする仕事」とあるが、医師にとって患者との対人関係は、なぜ必要なのか。本文の記述を参考に五〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問4 傍線部B「現在の大学には残念ながら医の倫理をきちんと教える人も機会も不充分だと考える」とあるが、それはなぜか。本文の記述を参考に七〇字以内で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問5 医療従事者にとって、医療知識以外に必要なことは何だと考えるか。以下の条件にしたがって記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とすること。

○2 二段落で構成すること。書き出しや段落の始まりは、一字あけて書くこと。

○3 段落の内容は、以下のようにすること。

第1段落 「医療知識以外に必要なこと」を端的に書くこと。

第2段落 それが必要だと考える理由を、具体的に書くこと。

○4 「～です」「～ます」などの丁寧語表現は使わないこと。

令和6年度 浅香山病院看護専門学校 社会人入試後期 国語総合 問題

受験番号	
氏名	

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

問 次の文章は、自死を図った25歳の息子・洋二郎の死亡までの11日間を、父親である筆者が描いた手記である。なお、この手記は、臓器移植法（一九九七年施行、二〇一〇年改正）以前に書かれたものである。これを読んで、あとの問いに答えよ。

アメリカでは一九八〇年代前半に、無脳症などの非常に重い障害を持って生まれた新生児に治療をすべきか^①否かめぐって、法廷、医学界、宗教界、ジャーナリズムを巻きこんだ大論争がくり広げられた。その論争を多角的に記録して考察を加えた^②ショセキの中で、私が最も心をゆさぶられたのは、著者であるワイヤー教授がこの本の最後に記した次のような指摘だった。

新生児集中治療室でわが子が死んでいく両親の精神的サポートや宗教の役割について注意が払われなければならない。障害新生児の生命を維持し、高める医学的な可能性に^③ショウジュンをおいたり、また治療停止を医学的・倫理的正当性のもとから語る時に、子どもを失う両親が、死が確実である乳児やすでに死んでしまった赤ちゃんを抱く必要性があることがしばしば忘れられているのである。デンバーの小児病院は、新生児を対象としたホスピスのプログラムに力を入れている。この病院の新生児集中治療室には「ファミリールーム」と呼ばれる別室がある。ソファや柔らかい椅子、柔らかい照明が^④施され、両親が重度な先天性障害のため生き長らえることができない新生児と、プライベートな時間をすごす機会の場として使われている。選択的治療停止の決断を下したり、それに手を貸したことによって子どもを失った人々には、泣いたり、考えたり、祈ったり、また、生き続けるにはあまりにも重い障害をもってしまった子どもたちの亡骸を抱くためにも、^Aプライベートな場所が必要なのである。

われわれは人の死というものを考えるとき、自分の死も他人の死もいっしょくたにしていることが多い。しかし、死というものには、「一人称の死」「二人称の死」「三人称の死」があり、それぞれにまったく異質である。

「一人称（私）の死」では、自分はどうような死を望むかという、事前の意思決定が重要になる。多くの人は自分の死に無頓着で、ガンの末期になったとき延命治療を望むのか拒否するのか、脳死状態に陥ったとき臓器提供をするのか断るのかといった意思表示を、きちんと文書で用意している人は少ない。それでも、一九九一年に（注一）東海大学医学部付属病院で「安楽死事件」が起きてからは、市民団体である日本尊厳死協会に「リビングウィル（生前の意思）」の手続きをする人が増えている。

「二人称（あなた）の死」は、パートナー、親子、兄弟姉妹、恋人の死である。人生と生活を分かち合った肉親（あるいは恋人）が死にゆくとき、どのように対応するかという、辛ききびしい試練に直面することになる。

「三人称（彼・彼女、ヒト一般）の死」は、第三者の立場から冷静に見ることのできる死である。交通事故で若者が5人即死しようと、アフリカで一〇〇万人が餓死しようと、われわれは夜眠れなくなることもないし、昨日と今日の生活が変わることもない。医師にとつての患者の死は、いかに熱心に治療を試みた患者であっても、やはり「三人称の死」である。人生と生活を分かち合った肉親と死別したときの^⑤ソウシツ感や悲嘆は、そこにはない。

このように^B「人稱」による死の意味の違いという視点から見ると、デンバーの小児病院におけるホスピス・プログラムは、「a」には「三人称の死」に過ぎない新生児の死であっても、「二人称の死」に直面した「b」の立場を大事にして、グリーフワークのための「時間」と「場」を確保しようという、新しい医療のあり方なのだとということが、より^⑥センメイになってくる。

私は洋二郎を看取った11日間の経過を思い返した。

洋二郎は、自宅近くの日本医科大学多摩永山病院の救命救急センターで心蘇生に成功し、^⑦ジャッカン⁷の自発呼吸も回復したが、4日目にはすべてのデータが脳死状態に陥ったことを示し、2回にわたる正規の脳死判定で「脳死」とされた。8日目に、生前の洋二郎が願っていた尊厳死の意思を尊重して、昇圧剤の点滴を打ち切り、最低限の輸液と人工呼吸器のみとしたが、その後も心臓はほとんど正常に鼓動を打ち続けた。11日目未明になって心機能が急速に弱まり始め、その日の夕刻、心停止が訪れ、人工呼吸器がはずされた。

この11日間の私自身の心の動きはというと、最初の2日ぐらいいは^⑧ドウテン⁸していて、助かるのか助からないのか、植物状態にな

るのか脳死まで進んでしまうのかといった^⑨ スイイにハラハラしどおしで、いま何をなすべきかといったことまでは考えがおよばない。脳の状態がいよいよ悪くなった3日目あたりから、洋二郎が骨髄バンクのドナー^⑩ トウロクをしていたことや、脳死や尊厳死などについて話し合ったことなどを思い起こしたり、家族と話し合ったりして、洋二郎の人生を完成させるには、どのようにしてやるのがよいかと、少しずつ前向きに考えられるようになった。そして5日目、第1回の脳死判定を終えた夜、洋二郎の死生観にそって、不必要な延命治療はやめるということと、洋二郎が書き遺していた(自分はこの世に生まれて誰の役にも立てなかった)という悔いを打ち消してやるために、死後腎提供を申し出ようということの二つを決心したのだった。

もちろん、そう決心したからといって、あとは^(ア) トントン拍子で移植の準備を進めたわけではない、その後も2日も3日もかけて、担当医や移植コーディネーターとじっくりと話し合い、ゆっくりと私自身の心を整理し、声なき洋二郎とも対話を重ねたうえで、可能な限り自然死に近い死を実現するための輸液の軽減と死後腎提供の準備に入ったのである。

その間、非常にありがたかったのは、^C 担当医が洋二郎の病態を丁寧に説明してくれたうえで、私たちをせかすこともなく、「脳死患者でも、私たちは生きている患者さんと同じように最後までお世話をします」といつてくれたことだった。(注2) ^D 看護婦たちも、深昏睡の洋二郎にやさしく声をかけ、誠意をこめた清拭を一日に3回もやってくれ、私たちにも、「たくさん声をかけて下さいね」といつて励ましてくれた。

私はこの11日間ほど、いのちの「共有」ということを強く感じたことはかつてなかった。そして、私たち家族は幸いにも、医師や看護婦たちのあったかいケアと会話に支えられて、グリーフワークの第一段階として決定的に重要な、看取りのためのゆったりとした「時間」が与えられたのだった。また、そのための「場」は、集中治療室のなかの個室であったから、たとえ深夜であっても、いくら長くいても、周囲に迷惑をかけたり^(イ) 気がねしたりすることもなく、息子の側にいてやることができた。

(柳田邦男「犠牲」わが息子・脳死の11日」より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している)

注 1 東海大学附属病院で起きた「安楽死事件」：平成3(一九九一)年、入院中の末期がん症状の患者(昏睡状態)に塩化カリウムを投与し、

患者を死に至らしめたとして、担当の内科医が殺人罪に問われた刑事事件。裁判で医師による安楽死の正当性が問われた。

2 「看護婦」という呼称に統一されたのは二〇〇二年のこと。

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがなで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 空欄a・bに当てはまる語を、本文中より抜き出して書け。

問3 傍線部(A)・(イ)の意味を簡潔に記せ。

問4 傍線部A「プライベートな場所が必要なのである。」とあるが、それはなぜか。本文の記述を参考に、二〇字以内で述べよ。

問5 傍線部B「人稱」による死の意味の違いについて、本文の記述を参考に、それぞれ四〇字以内で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問6 二重傍線部C「担当医」・D「看護婦」について、この現場における担当医や看護師の対応について、あなたはどのように考えるか。以下の条件にしたがって記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とすること。

○2 二段落で構成すること。書き出しや段落の始まりは、一字あけて書くこと。

○3 段落の内容は、以下のようにすること。

第1段落 「担当医や看護師の対応」をどう考えるか、について、端的に書くこと。

第2段落 なぜそう思うのか、を具体的に書くこと。

○4 「です」「ます」などの丁寧語表現は使わないこと。

令和6年度 浅香山病院看護専門学校 一般入試前期 国語総合 問題

受験番号	
氏名	

※解答はすべて解答用紙に記入すること。

問 次の文章Ⅰ・Ⅱを読んで、あとの問いに答えよ。

【文章Ⅰ】

中瀬恵里さんは、全盲の読書家です。^① センテンテキに全盲ですから、そもそも「見る」ということがどういうことを経験的に知りません。それゆえ、目が見える人の文章を読んだときに、小さな違和感を感じることがあると言います。

【a】小説で、レストランの店内の様子が描写されていたとします。「店の扉をあけると、カウンターのほかにテーブル席が五つあった」。たとえばこんな何気ない描写であつたとしても、中瀬さんにとっては、違和感を感じると言います。

それはどんな違和感か。^A 「細かい」と中瀬さんは言います。「本を読むとすごく情報が細かい。ふだん知らないようなことも書いてあつて、細かいな、と思います。」

「細かい」という反応は、中瀬さんが実際にレストランに行くときの経験の記憶と、本で描写されている情報を比較することから生じています。中瀬さんは、行きつけのお店であつてさえ、わざわざ席の数を確認したことはない。ゆえに思い出そうとしても思い出すことができない。それは意識していない、記憶していない情報です。

ところが、目が見える人が書いた文章には、^(ア) 平然と席の数が「五つ」と明示してある。自分が意識・記憶していない情報が描いてあるがゆえに、中瀬さんはそれを「細かい」と感じているのです。注意しなければならぬのは、この差異が、単純な情報の「量」には^② カンゲンできないということです。

確かに目が見える人の記述は、中瀬さんが意識・記憶していない情報も含まれているという意味で、情報量が多いように思えます。しかし「テーブルが五つ」という情報によって、目が見える人が何を伝えようとしているかを考えれば、そこに「質」の問題も関わっていることが分かります。

目が見える人がレストランの席数を記述するとき、多くの場合は「レストランの規模」を読者に伝えることが目的でしょう。「五席」であればかなり^(イ) こじんまりしたレストランでしょうし、「一〇〇席」となればファミレスのような、端末で注文するような機械化された店をイメージします。席数という情報を手がかりに、目が見える人は、店舗の空間的な広さやタイプ、料理の価格帯、想定されるコミュニケーションなどについてのイメージをふくらませます。

では全盲の方がレストランに行くとき、こうした店の規模に関する情報を得ていないかという点、必ずしもそういうわけではないでしょう。お客さんの会話のトーン、BGMや環境音が^③ ハンキョウする具合、あるいは頬にあたる空気の流れを手がかりに、彼らは瞬時に「規模」を把握しているはずで、中瀬さんも「たとえば初めてのレストランに行っても、広そうなレストランなのか、こじんまりしたレストランなのかは、なんとなく雰囲気で分かります」と言います。ただ「席数」という数では表現しただけです。

加えて、見える人が座席を描写するのは、レストランに入ったときに、「自分(たち)の席を選ぶ」意識があることも関係しているでしょう。店のなかで、どこに空席があり、どこが人数にふさわしく、かつどこが最も^④ イゴコチがよさそうか。「b」目に見える人の多くが、レストランに入った瞬間、「テーブル」に意識を^⑤ 奪われているのです。

このように、目の見えない人と見える人では経験のパターンが違っており、だからこそ、「自然だ」と感じる描写のパターンも違ってきます。そのギャップが「細かい」というような量的な多少として感じられたとしても、その背後にあるのは、経験の質的な差異です。

(伊藤亜紗「記憶する体」より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している)

【文章Ⅱ】

全盲の木下路徳さんは、子供の頃、視力が弱まるにつれて^B 同級生がよそよそしくなっていた経験について語っています。小学生の頃、木下さんは目の手術をして半年くらい学校を離れていました。その後学校に復帰しましたが、しばらくは^(注) 弱視学級という別室でマンツーマンの授業を受けていました。

でもあるとき、音楽や給食の時間は、それまで通っていた通常のクラスに帰ろうということになったそうです。それで、それまで一番仲のよかった友達が、弱視学級の教室に迎えに来てくれることになりました。もとのクラスに自然に戻れるようにという先生の^⑥ ハイリヨだったのでしょうか。

【c】このことが、小学生の木下さんに最初のショックを与える結果になってしまいました。「親友が来てくれたんだけど、「よ

お！」みたいな和気あいあいとした雰囲気にならなくて、『はい、じゃあ行きましょうか』というような（ウ）事務的な感じで、何も

しゃべらず移動していったんですね。何これ、ぜんぜん楽しくないじゃんって（笑）。その後も友達とは以前のような関係に戻れず、クラス替えでますます距離は遠のくばかり。「仲のよい友達を奪われた」という感じだったと言います。

⑦ スイックするに、弱視学級の教室に迎えに来てくれた親友は、悪意からよそよそしくしたのではないと思います。むしろ、その反対に善意があったのではないでしょうか。木下くんは目の手術をしたのだ、つまりいたり転んだりしないように気をつけなければいけない、危ないものがあつたら教えなければいけない、とキンチョウしていたのではないのでしょうか。

でも、このような意味で「大事にする」のは、友達同士の関係ではありません。からかったり、けしかけたり、ときには突き飛ばしたり、小学生の男子同士なら自然にやりあうようなことが、善意が⑨カベになって成立しなくなってしまう。「だんだん見えなくなっていくと、みんながぼくのことを大事に扱うようになって、よそよそしい感じになって、とてもショックでした」。

情報ベースでつきあう限り、見えない人は見える人に対して、どうしたって⑩劣位に立たされてしまいます。そこに生まれるのは、健常者が障害者に教え、助けるというサポートの関係です。福祉的な態度とは、「サポートしなければいけない」というキンチョウ感であり、それがまさに見える人と見えない人の関係を「しぼる」のです。

もちろんサポートの関係は必要ですが、福祉的な態度だけでは、「与える側」と「受けとる側」という固定された上下関係から出ることができない。それではあまりにもったいないです。お互いの失敗を笑い合うような普通の人間関係があつていいはずだし、そのためには、話そうと思えばお互いの体について、障害について、恋愛事情を打ち明け合うようなノリで話し合えるような関係があつていいはずです。福祉的な態度とは、福祉に関わる人の態度という意味ではありません。実際の福祉の現場には、サポートだけではない、和気あいあいとした関係もたくさんあるはずですよ。

（伊藤亜紗「目の見えない人は世界をどう見ているのか」より。なお、出題の都合上、本文の一部を改変・省略している）

注 弱視学級： 弱視の生徒のための特別支援学級。

問1 傍線部①～⑩について。漢字は読みをひらがなで記せ。カタカナは正しい漢字に書き改めよ。

問2 傍線部（ア）～（ウ）の意味を簡潔に記せ。

問3 空欄a～cに当てはまる適切な接続語を書け。

問4 傍線部A「細かい」について。中瀬さんがそのように感じるのはなぜか。本文の記述を参考に五〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする

問5 傍線部B「同級生がよそよそしくなっていた」のは、具体的にどのような理由によるものか。本文の記述を参考に七〇字程度で述べよ。なお、句読点も字数に含むものとする。

問6 健常者と障害者の理想的な関係とは、どのようなものだと考えるか。以下の条件にしたがって記述せよ。

【条件】

○1 字数は、一六〇字以上、二〇〇字以内とすること。

○2 二段落で構成すること。書き出しや段落の始まりは、一字あけて書くこと。

○3 段落の内容は、以下のようにすること。

第1段落 「理想的な関係」を、端的に書くこと。

第2段落 なぜそれが理想的なのか、理由や経緯を具体的に書くこと。

○4 「～です」「～ます」などの丁寧語表現は使わないこと。